

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

北海道 余市町

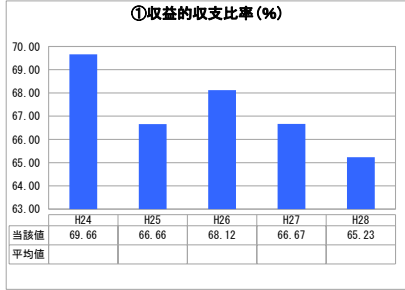
| 業務名       | 業種名         | 事業名    | 類似団体区分 | 管理者の情報           |
|-----------|-------------|--------|--------|------------------|
| 法非適用      | 下水道事業       | 公共下水道  | Cc2    | 非設置              |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20㎡当たり家賃料金(円) |
| -         | 該当数値なし      | 81.45  | 78.02  | 4,300            |

| 人口(人)      | 面積(km <sup>2</sup> )     | 人口密度(人/km <sup>2</sup> )      |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 19,617     | 140.59                   | 139.53                        |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km <sup>2</sup> ) | 処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> ) |
| 15,779     | 5.48                     | 2,879.38                      |

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

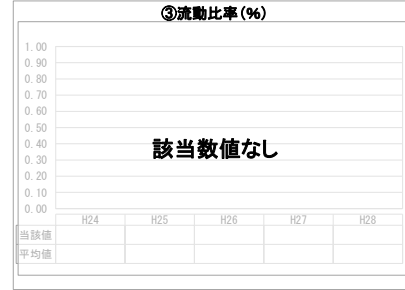
## 1. 経営の健全性・効率性



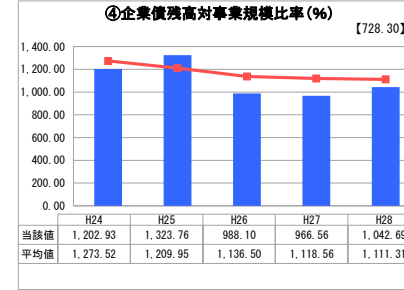
「単年度の収支」



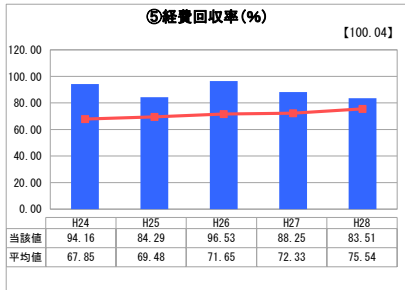
「累積欠損」



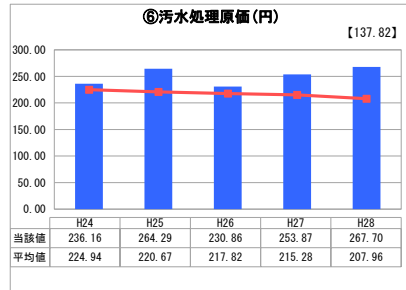
「支払能力」



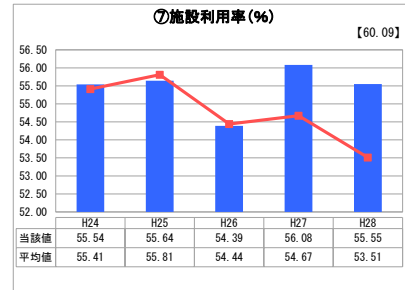
「債務残高」



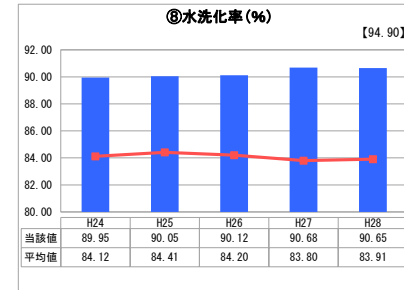
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

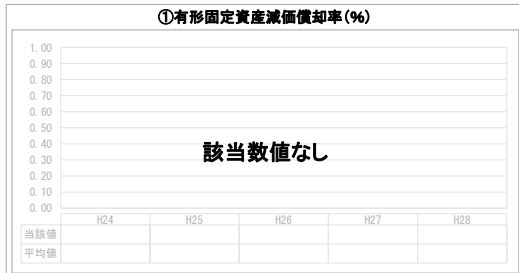


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

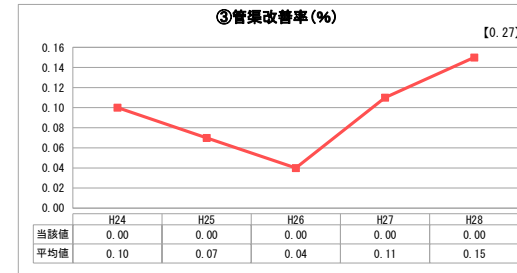
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本町における経営の健全性と効率性については類似団体の平均程度に位置しているものの人口減少に伴い、処理区域内人口密度が減少傾向にあることから、将来における料金収入の減少が懸念されます。企業債の元金償還金と減価償却費との間に構造的に生じた資金不足が発生しています。また、施設利用率は5.6%であるが下水道計画当初の施設規模を平成22年度に、下水道計画人口及び計画汚水量を平成27年度に見直ししており、今後下水処理場及びポンプ場の設備について、スペックダウンの検討をおこない、水洗化率の向上と合わせて施設利用率の改善をおこなう必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

本町の下水道施設は供用開始後20年以上経ち、管渠、設備・機器ともに老朽化がすすんでいます。このような状況の中、長期的な視点で下水道施設全体の今後の老朽化の進展状況を考慮し維持管理、改築・修繕を一体的に捉え下水道施設を計画的かつ効率的に管理する計画（ストックマネジメント計画等）を策定し、施設の更新工事を行っていく必要があります。

### 全体総括

今後、人口減少を踏まえた汚水処理施設による整備区域の見直しをおこない、投資の効率化と維持管理費の削減を図りながら持続可能な財政運営に努めます。また、企業債の償還にあたり、減価償却費との間に生じた資金不足については、資本費平準化債の活用により、世帯間による負担の公平性を確保します。＜経営戦略の策定＞平成28年度において、経営基盤の強化と安定した事業経営を目指すため中長期的な視野に立った経営の基本計画を策定しました。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
 ※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。